いろいろな場所で活躍する衆議院事務局職員

衆議院事務局では、職員の視野を広げる目的で、ほぼ全ての省庁との人事交流を行っています。入局３年目から10年目程度の職員が対象となり、出向期間は２～３年間です。また、外務省との人事交流の一環として、海外の在外公館で働く機会もあります。

旅行が好きで、休日は積極的に英国各地に足を運んでいます。最近は古城巡りにはまっており、ヘンリー何世？エドワード何世？と人名にやや混乱しつつ、英国の歴史に触れています。

異国から日本を見つめ直す

樋口　周一

在英国日本国大使館一等書記官
（平成25年入局）

ロンドンの日本大使館にて、英国の政治情勢の調査や議会間交流に関する業務を担当しています。

本稿執筆の令和５年９月時点で、野党労働党の支持率は与党保守党を20ポイント程度リードしています。それだけ聞けば政権交代は確定的と思われるかもしれませんが、政党関係者や有識者に意見を聞くと、翌年に想定されている次期総選挙の見通しについての見解は必ずしも一致していません。また、一般的に英国は二大政党制の国として認識されていますが、実は地域毎に有力な政党が異なり、単純な二政党間の争いが行われているわけでもありません。地域によって争点も変わり得るため、各地域のルーツや特色を踏まえた選挙情勢の分析を行う必要があり、私は今その奥深さに惹きつけられています。

衆議院事務局の職場としての魅力の一つは、仕事を通じて社会を知り、社会に生きる人間として成長し続けられることだと考えています。部署によって関わり方・貢献の仕方は様々ですが、コロナ禍での緊急事態宣言のように国民生活に直結する決断や、外国人労働者の受入れのように国の将来の在り方に大きく影響する選択が、身近な場所で議論されます。社会を知り、視野を広げるという意味では、大使館への出向はその最たる機会です。異国の地で暮らしているだけで日々新たな発見がありますし、仕事を通じて日本社会を見つめ直す契機にもなっています。

このパンフレットを手に取っているような、政治や社会に多少なりとも興味がある方であれば、衆議院事務局は間違いなく退屈せずに自分を高められる職場です。皆さんの入局をお待ちしています！

休日の楽しみはカフェにランチやスイーツを食べに行くことです。おしゃれなカフェでゆったり過ごす時間は、非日常感もあり至福の時です。散歩も好きなので、カフェに行くまでの道のりも楽しみの一つです。

霞が関から国会を見つめて

佐伯　桃菜

厚生労働省労働基準局労働条件政策課
（令和３年入局）

令和５年７月から厚生労働省に出向しています。配属先の労働基準局労働条件政策課では、主に労働時間、休息等の労働条件や労働者の保護などに関する政策を扱っており、その中で私は課の窓口として、国会対応などに際し、関係部署との連絡調整を行っています。加えて、分科会などの各種会議の運営や労働法教育に関する業務なども担当しています。

国会議員を含め、厚生労働省の内外から寄せられる依頼事項について、その内容に応じて適切かつ迅速に担当部署と調整するためには、労働行政に関する知識はもちろん、どの部署がどのような業務を担当しているのかをしっかりと把握している必要があります。聞き慣れない専門用語や、部署の数の多さに戸惑うこともありますが、新しい経験は刺激的で、忙しくも充実した毎日です。

私は、厚生労働省に出向して、立法府と行政府の深い関係性や国会が持つ影響力を改めて実感しています。省庁が何か行動を起こすためには予算や法律が不可欠ですが、それらは国会を通過しなければ効力は生じません。また、刻一刻と変化する国会情勢は省庁の業務にも大きく影響します。今回の出向で、行政側の職員として、国会職員とは異なる立場から、立法府と行政府の関わりを実際に見ることができ、非常に学ぶところが大きいと感じています。

衆議院事務局には、省庁への出向をはじめ、自己の知識・経験を深める多様な機会があります。このパンフレットを手にされた皆様と、衆議院で一緒にお仕事ができる日を楽しみにしています。